

## 「自然のささやき」について

信州自然誌科学館主催の「自然の・・・」シリーズも、今年で6回目を迎えます。毎回、たくさんの子供さんと親御さんにお出でいただき、真夏の週末に科学の楽しさをお伝えする恒例の行事となったようです。これまで「おどろき」、「なぞ」、「ふしぎ」、「だいすき」、「まわる」をキーワードに開催してきましたが、今年は「ささやき」です。

「自然のささやき」に込めた意味を、ここで紹介しましょう。自然は、様々な法則性のもとに成り立っています。リンゴが木から落ちたり、昼と夜が交互にあったり、冬には雪が降るのに夏になると雨になったりすることも、それぞれ理由があります。人は昔から自然現象に対して「ふしぎだなあ」と感じては「どうしてだろう」と考えてきました。「ふしぎだなあ、どうしてだろう」が科学の基本です。雨が降ってくるとき、「雲の中では雪だったんだけど、途中で溶けて雨になっちゃったんだよ」とか「空に塵や埃が無いと雪や雨は降らないんだよ」と大きな声で叫んではくれません。もし、叫んでくれたら、「ふしぎだなあ、どうしてだろう」と考えることもありません。自然は、小さな声で囁いています。とてもきれいな法則性の上に成り立っているんだよと囁いています。この「ささやき」を心を澄まして聴くことが科学することだと考えています。心を澄ましていないと「ささやき」と「雑音」の区別が付きません。自然現象をじっくり観察したり、繰り返し実験をしたりしながら「自然のささやき」をもっともっと聴き取れるようになりたいものです。いわゆる環境問題と言われる現象のすべては、人が「自然のささやき」をきちんと聴き取らないままに活動しているからに他なりませんので、「ささやき」を理解する作業はとても大事なことです。

今年の「自然のささやき」では、いろいろな「ささやき」の解読結果を、わかりやすく説明する展示をたくさん用意しましたので、2日間たっぷりお楽しみ下さり、たくさん「ささやき」を聴き取れるようになってください。

また、今年は学部生や大学院生が、準備の段階から今日の本番まで大活躍してくれています。そんな彼らにドンドン質問してみてください。

信州自然誌科学館 2006「自然のささやき」実行委員会  
委員長 鈴木啓助